

司法試験法の改正を踏まえた短答式試験の在り方等について（案）

第 1 実施日程等

短答式試験及び論文式試験を5月中旬頃の同時期に実施するという点については変更を加えない。具体的な試験日程については、当面、現行の日程（中日1日を挟んだ4日間とし、短答式試験を最終日とする。）を維持する。

短答式試験については、科目ごとに試験時間を設定し、憲法は50分、民法は75分、刑法は50分とする。

第 2 短答式試験による一次評価

1 短答式試験の合格に必要な成績を得た者の判定方法

短答式試験の各科目の合計点をもって同試験の合格に必要な成績を得た者の判定を行うこと、短答式試験において最低ラインに達していない科目が1科目でもある者については、それだけで不合格とすることについては、従前の運用を維持する。

2 短答式試験における最低ライン

最低ラインは、引き続き、各科目における満点の40%点とする。

第 3 短答式試験の出題方針

短答式試験の出題方針については、従前の司法試験考査委員会議申し合わせ事項のとおり、裁判官、検察官又は弁護士となろうとする者に必要な専門的な法律知識及び法的な推論の能力を有するかどうかを判定することを目的とするものであるが、その出題に当たっては、法科大学院における教育内容を十分に踏まえた上、基本的事項に関する内容を中心とし、過度に複雑な形式による出題は行わないものとするとの運用を維持する。

第 4 短答式試験の問題数及び点数

1 憲法

20問ないし25問程度とし、50点満点とする。

2 民法

30問ないし38問程度とし、75点満点とする。

3 刑法

20問ないし25問程度とし、50点満点とする。

第 5 短答式試験と論文式試験の総合評価

短答式試験の得点と論文式試験の得点を合算した総合点をもって総合評価を行うことについては変更は加えない。

合算の際の配点については、短答式試験と論文式試験の比重を 1 : 8 とし、総合点は以下の算式により計算する。

$$\text{算式} = \text{短答式試験の得点} + \left(\text{論文式試験の得点} \times \frac{1400}{800} \right)$$

試験時間等に関するアンケート等の概要について

1 東京弁護士会によるアンケート（受験生を対象）

- (1) 平成 24 年司法試験について（回答総数 282 通）
- 短答式試験の問題の量についてのアンケート結果
- ① 公法系
多すぎる 5 やや多い 34 適当 209
- ② 民事系
多すぎる 11 やや多い 55 適当 202
- ③ 刑事系
多すぎる 12 やや多い 50 適当 195
- (2) 平成 23 年司法試験について（回答総数 215 通）
- 短答式試験の問題の量についてのアンケート結果
- ① 公法系
多すぎる 17 やや多い 47 適当 141
- ② 民事系
多すぎる 18 やや多い 35 適当 150
- ③ 刑事系
多すぎる 74 やや多い 87 適当 54

2 法科大学院協会によるアンケート（法科大学院を対象）

- (1) 評価の分布
別添資料参照。
- (2) 個別意見からの抜粋
- ・ 出題範囲のバランス，分量，難易度からみて適切と判断（H25，憲法）。
 - ・ 例年のことながら問題数が多すぎる（H25・行政法）。
 - ・ 試験時間とのバランスが疑問（H25・民法）。
 - ・ 分量・内容ともおおむね適切であると評価できる（H25・商法）。
 - ・ 時間に比して問題数が多く，また細かな条文等の知識を問いつぎる（H25・民事訴訟法）。
 - ・ 分量・内容とも適切（H25・刑法，刑事訴訟法）
 - ・ 分量が少し多いように思われる（H25・刑事訴訟法）
 - ・ 質・量ともに適切である（H24・憲法）。
 - ・ 内容・量・難易度すべて適切であると考え（H24・行政法）。
 - ・ あいかわらずやや問題数が多すぎないか（H24・行政法）。
 - ・ 難度も分量も適当である（H24・民法）。
 - ・ 基本的な問題であり分量も適切（H24・商法）。
 - ・ 時間の割には問題数が多すぎる（H24・商法）。
 - ・ 難度・分量も適当であり良問が多い（H24・民事訴訟法）。
 - ・ 民事体系全体でみると，150分で解答するのだから，平均1問2分というこ

とになるのであって、例年のことながら時間的には若干厳しいのではないかが懸念される（H24・民事訴訟法）。

- ・ 問題の質・量と時間的制約の均衡がとれている（H24・刑法）。
- ・ より時間的余裕を与える代わりに解答の正確性をより求めるのも一案か（H24・刑法）。
- ・ 今年は時間的・難易度ともバランスがとれている（H24・刑事訴訟法）。
- ・ 条文問題と判例問題とで、さらに捜査から公判に至るまでバランスよく出題されている。考えさせられる問題があるため、分量的には多少減らしたほうがよいのではないかと印象を受ける（ただし、刑法との内容と分量との関係では適切とおもわれる。）（H24・刑事訴訟法）。

短答式試験アンケート集計表
(平成25年～平成21年)

	適切		どちらかといえば適切		どちらともいえない		どちらかといえば適切でない		適切でない		合計
	校数	割合	校数	割合	校数	割合	校数	割合	校数	割合	
平成25年											
憲法	26.校	41.9%	31.校	50.0%	2.校	3.2%	2.校	3.2%	1.校	1.6%	62校
行政法	30.校	46.2%	25.校	38.5%	8.校	12.3%	2.校	3.1%	0.校	0.0%	65校
民法	33.校	50.8%	27.校	41.5%	5.校	7.7%	0.校	0.0%	0.校	0.0%	65校
商法	23.校	33.8%	32.校	47.1%	9.5校	14.0%	3.校	4.4%	0.5校	0.7%	68校
民事訴訟法	31.5校	48.5%	25.5校	39.2%	6.校	9.2%	2.校	3.1%	0.校	0.0%	65校
刑法	39.4校	58.8%	23.3校	34.8%	1.8校	2.7%	1.5校	2.2%	1.校	1.5%	67校
刑事訴訟法	34.8校	53.5%	24.5校	37.7%	4.2校	6.5%	1.5校	2.3%	0.校	0.0%	65校
全体	217.7校	47.6%	188.3校	41.2%	36.5校	8.0%	12.校	2.6%	2.5校	0.5%	457校

	適切		どちらかといえば適切		どちらともいえない		どちらかといえば適切でない		適切でない		合計
	校数	割合	校数	割合	校数	割合	校数	割合	校数	割合	
平成24年											
憲法	16.5校	24.6%	29.校	43.3%	13.5校	20.1%	6.校	9.0%	2.校	3.0%	67校
行政法	20.校	29.4%	31.5校	46.3%	7.5校	11.0%	8.校	11.8%	1.校	1.5%	68校
民法	30.校	46.2%	29.校	44.6%	5.校	7.7%	0.校	0.0%	1.校	1.5%	65校
商法	27.校	43.5%	25.5校	41.1%	4.5校	7.3%	5.校	8.1%	0.校	0.0%	62校
民事訴訟法	36.5校	55.3%	24.5校	37.1%	4.校	6.1%	1.校	1.5%	0.校	0.0%	66校
刑法	34.5校	49.3%	29.5校	42.1%	3.校	4.3%	3.校	4.3%	0.校	0.0%	70校
刑事訴訟法	28.5校	45.2%	32.5校	51.6%	2.校	3.2%	0.校	0.0%	0.校	0.0%	63校
全体	193.校	41.9%	201.5校	43.7%	39.5校	8.6%	23.校	5.0%	4.校	0.9%	461校

	適切		どちらかといえば適切		どちらともいえない		どちらかといえば適切でない		適切でない		合計
	校数	割合	校数	割合	校数	割合	校数	割合	校数	割合	
平成23年											
憲法	24.校	35.8%	30.校	44.8%	7.校	10.4%	5.校	7.5%	1.校	1.5%	67校
行政法	20.校	30.8%	33.校	50.8%	6.校	9.2%	6.校	9.2%	0.校	0.0%	65校
民法	23.5校	34.6%	37.5校	55.1%	6.校	8.8%	1.校	1.5%	0.校	0.0%	68校
商法	23.校	34.3%	34.5校	51.5%	4.5校	6.7%	5.校	7.5%	0.校	0.0%	67校
民事訴訟法	29.33校	44.4%	33.33校	50.5%	2.33校	3.5%	1.校	1.5%	0.校	0.0%	66校
刑法	30.校	44.1%	30.校	44.1%	6.校	8.8%	2.校	2.9%	0.校	0.0%	68校
刑事訴訟法	14.校	21.5%	33.校	50.8%	12.校	18.5%	4.校	6.2%	2.校	3.1%	65校
全体	163.83校	35.2%	231.33校	49.6%	43.83校	9.4%	24.校	5.2%	3.校	0.6%	466校

	適切		どちらかといえば適切		どちらともいえない		どちらかといえば適切でない		適切でない		合計
	校数	割合	校数	割合	校数	割合	校数	割合	校数	割合	
平成22年											
憲法	23.校	39.7%	31.校	53.4%	2.校	3.4%	2.校	3.4%	0.校	0.0%	58校
行政法	24.校	44.4%	25.校	46.3%	3.校	5.6%	1.校	1.9%	1.校	1.9%	54校
民法	20.校	33.3%	31.校	51.7%	7.校	11.7%	1.校	1.7%	1.校	1.7%	60校
商法	13.校	22.4%	21.校	36.2%	9.校	15.5%	12.校	20.7%	3.校	5.2%	58校
民事訴訟法	27.校	45.8%	24.校	40.7%	5.校	8.5%	2.校	3.4%	1.校	1.7%	59校
刑法	28.校	45.9%	27.校	44.3%	4.校	6.6%	2.校	3.3%	0.校	0.0%	61校
刑事訴訟法	28.校	48.3%	27.校	46.6%	3.校	5.2%	0.校	0.0%	0.校	0.0%	58校
全体	163.校	40.0%	186.校	45.6%	33.校	8.1%	20.校	4.9%	6.校	1.5%	408校

	適切		どちらかといえば適切		どちらともいえない		どちらかといえば適切でない		適切でない		合計
	校数	割合	校数	割合	校数	割合	校数	割合	校数	割合	
平成21年											
憲法	20.校	27.8%	39.校	54.2%	9.校	12.5%	4.校	5.6%	0.校	0.0%	72校
行政法	23.校	33.3%	36.校	52.2%	6.校	8.7%	3.校	4.3%	1.校	1.4%	69校
民法	25.校	35.2%	39.校	54.9%	5.校	7.0%	1.校	1.4%	1.校	1.4%	71校
商法	14.校	20.0%	35.校	50.0%	10.校	14.3%	9.校	12.9%	2.校	2.9%	70校
民事訴訟法	27.校	40.3%	31.校	46.3%	5.校	7.5%	3.校	4.5%	1.校	1.5%	67校
刑法	29.校	42.0%	28.校	40.6%	9.校	13.0%	3.校	4.3%	0.校	0.0%	69校
刑事訴訟法	31.校	47.0%	28.校	42.4%	6.校	9.1%	1.校	1.5%	0.校	0.0%	66校
全体	169.校	34.9%	236.校	48.8%	50.校	10.3%	24.校	5.0%	5.校	1.0%	484校

注) アンケート回答校数として小数点のある場合は、1回答校に複数の種別の回答があったことの反映である。

司法試験と旧司法試験 短答式試験の比較

1 旧司法試験

平成2～22年 旧司法試験 各科目 20問 計 60問 3時間30分

憲	法	20問	(20点)	3時間30分
民	法	20問	(20点)	
刑	法	20問	(20点)	
合	計	60問	(60点)	

【参考】

昭和61～平成元年	各科目	20問	計 60問	3時間
昭和57～60年	各科目	25問	計 75問	3時間
昭和47～56年	各科目	30問	計 90問	3時間
昭和39～46年	各科目	20問	計 60問	3時間
昭和36～38年	各科目	25問	計 75問	3時間30分

2 現行司法試験

平成25年司法試験

民事系	74問(150点)	【民法】	36問(74点)	2時間30分
		【商法】	19問(38点)	
		【民訴法】	19問(38点)	
休憩時間：1時間				
公法系	40問(100点)	【憲法】	20問(50点)	1時間30分
		【行政法】	20問(50点)	
休憩時間：30分				
刑事系	40問(100点)	【刑法】	20問(50点)	1時間30分
		【刑訴法】	20問(50点)	
合計		7科目	154問(350点)	5時間30分

※ 休憩時間：試験終了から次の試験の着席時間までの時間
着席時間から試験開始までは、民事系30分、公法系、刑事系各15分

【参考】

平成18年～	公法系科目	40問程度	1時間30分
	民事系科目	75問程度	2時間30分
	刑事系科目	40～50問程度	1時間30分

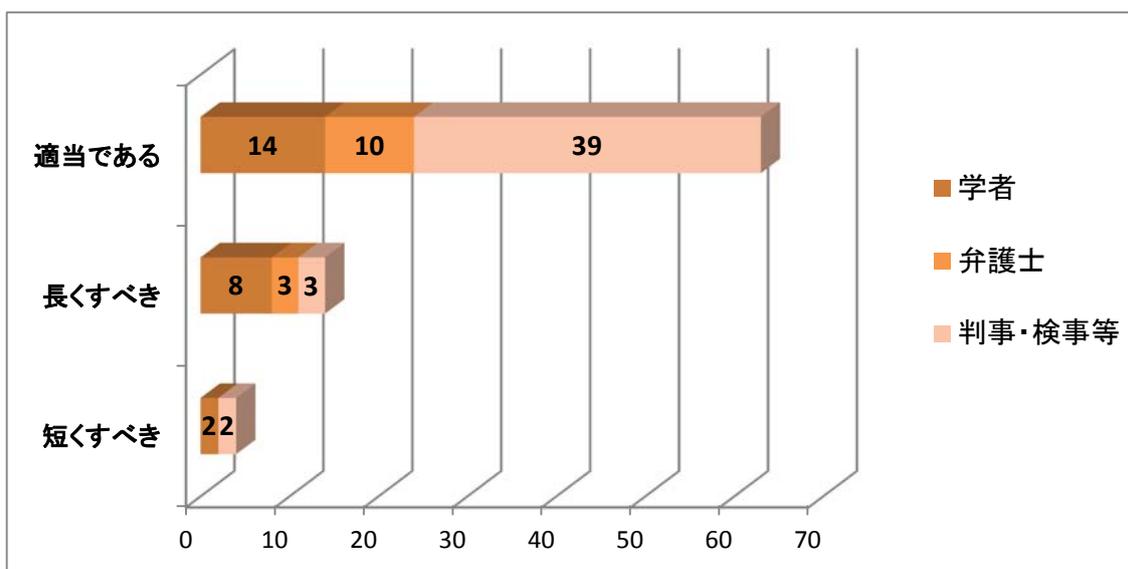
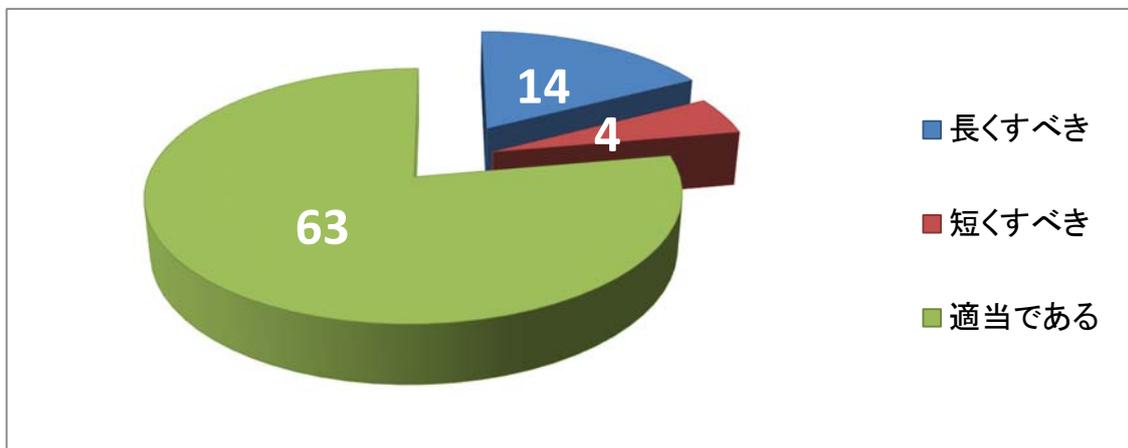
平成18～25年司法試験短答式試験における最低ライン点未満者調

	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
公 法 系	40人	202人	47人	201人	45人	391人	943人	226人
民 事 系	13人	98人	86人	185人	200人	153人	268人	109人
刑 事 系	4人	42人	25人	287人	370人	702人	115人	398人
実 人 員	50人	261人	126人	447人	474人	924人	1,012人	508人
合格点を超過している が最低ライン点を下 回った科目があり不 合格となった者の数	2人	1人	0人	0人	0人	6人	12人	0人

審査委員に対するアンケートの集計結果（短答式試験関係）

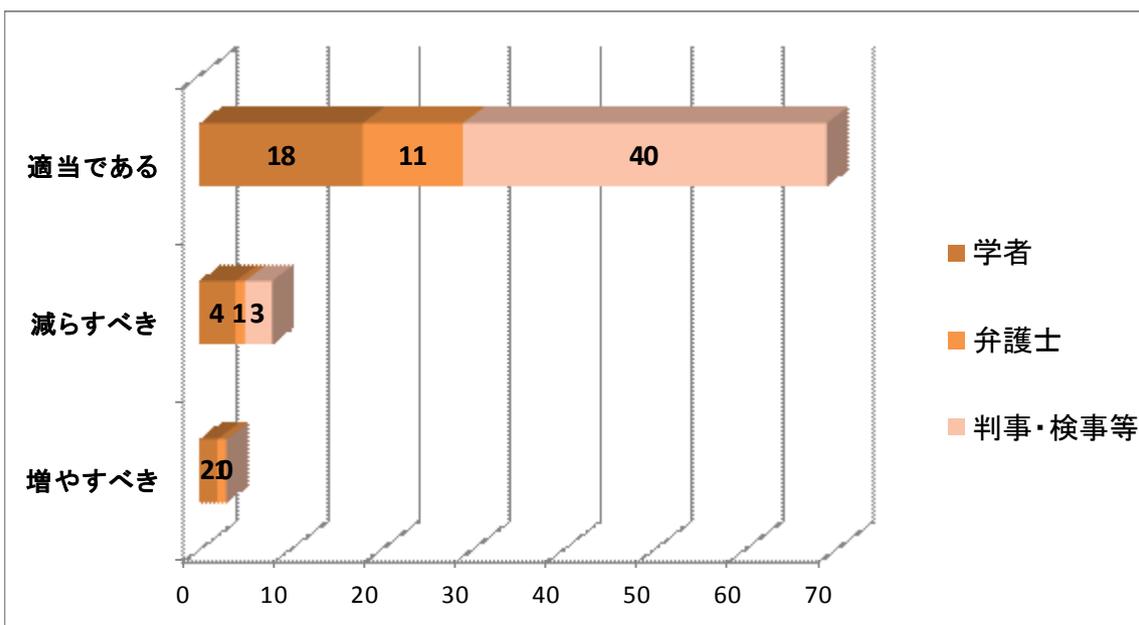
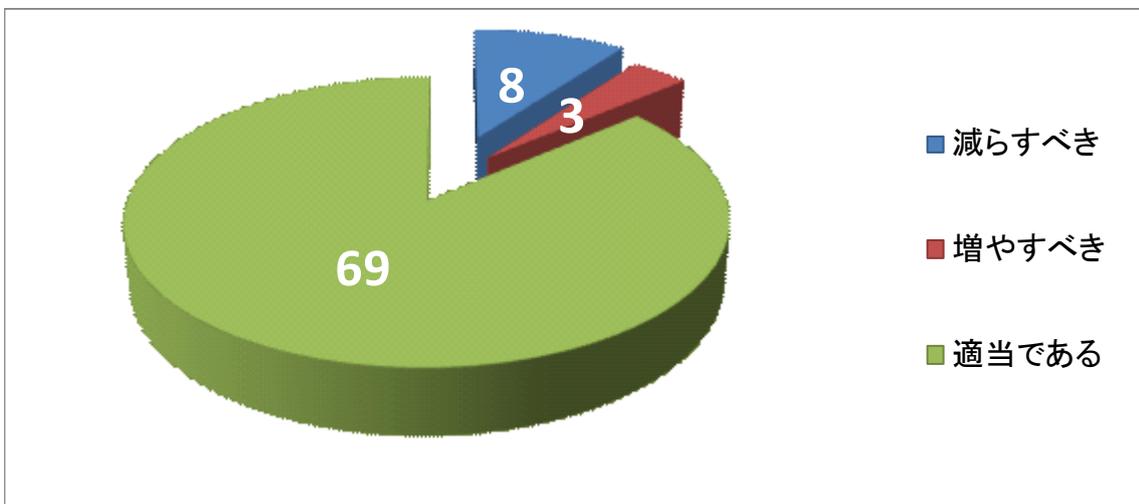
1 試験時間について

問題数や難易度等に照らし、試験時間に改善の必要があるか [回答数81]



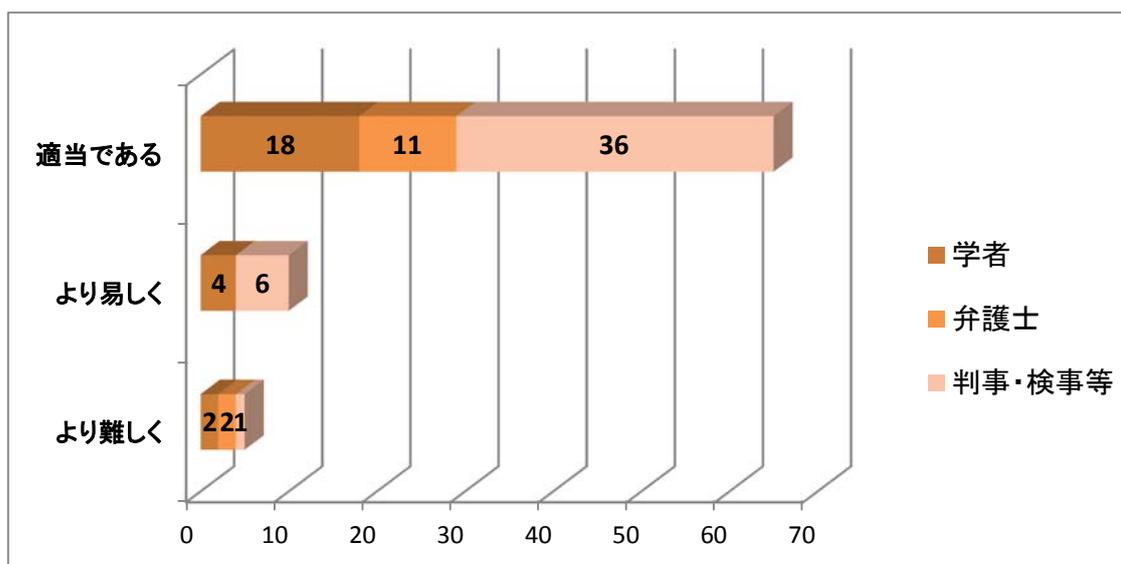
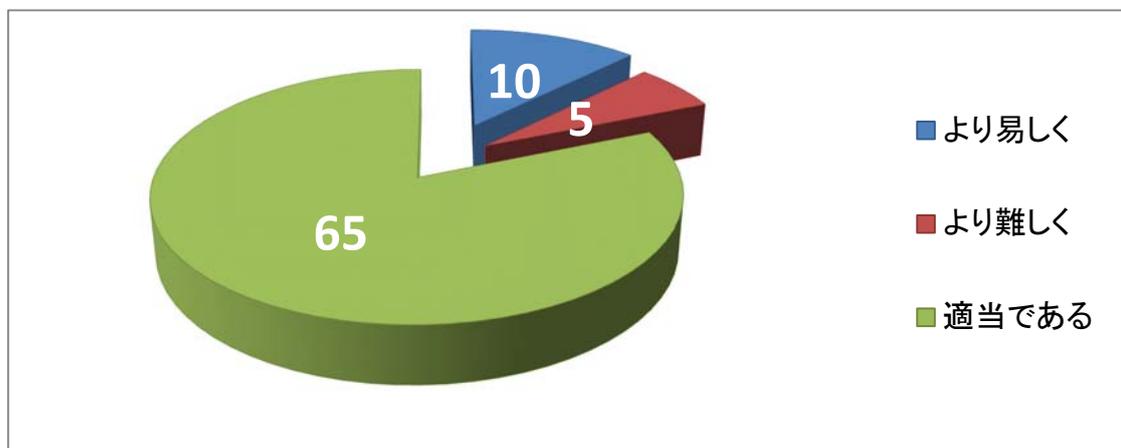
2 問題数について

試験時間や問題の難易度等に照らし、問題数が多すぎる又は少なすぎるなど、改善の必要があるか [回答数80]



3 問題の難易度について

試験時間や問題数等に照らし、問題の難度が高すぎる又は低すぎるなど、改善の必要があるか [回答数80]



4 出題分野の範囲について

短答式試験の出題分野を一定の範囲に限定したり，出題分野から一定の範囲を除外したりすることについて，どのように考えるか [回答数81]

